

こんにちは。せのじ
むこと妹尾です

このニュースレターは読者の皆様に事務所のことをもっと知っていただきたいと思い発行しています



法務ページかわら版



平成 27 年(2015 年) 4 月 1 日発行

平成 27 年 第 84 号

発行◆せのお社会保険労務士・行政書士事務所 岡山県井原市岩倉町 1081-1 TEL 0866.63.3213

こんにちは。開業して丸 7 年が経ちました、社会保険労務士・行政書士の妹尾です。開業から始めたこのニュースレターも 84 号になりました。

ニュースレターの号数がそのまま、私の事務所の開業月数になります。

これからも 100 号、200 号、300 号を目指して頑張ります。

④ 「ニュースレター」のススメ

あらためて、ニュースレターについて。

私は開業からニュースレターを続けてきたわけですが、誰に勧められるもなく、本を読んだわけではなく、ただ、前職で社内報を作ったところ、非常に好評で、開業したら社内報を発展させたニュースレターを作ってみようと考えていました。

最初は、読んでくれる人が少なく、作った内容にも自信がなかったせいもあるのでしよう、手渡す人は 10 人ぐらいと地味～にスタートしました。

そんな状態から初めて早 7 年が経ちました。

今では結構、読んでくださる方がいて嬉しい限り。

ニュースレターを作成すると次のようなことが起きました。

- ・ニュースレターのネタを探しに出かけることが多くなる
- ・結果、家族サービスになる
- ・読んだ感想をいただくと嬉しいので、励みになる
- ・仕事の見方、関わり方、考え方が変わる
- ・毎月作成するのとパースメーカーになる

初めは自分自身、内容がつまらないなと思っていても、いいと思います。頭をひねって、考えるところにその人の持ち味が出てきて、読んで楽しいものになります。

ニュースレターを作成するといいいことばかり起きます。

ご商売をされている方には、ぜひおススメします。

(文/妹尾 悟)



●福山城で撮影した桜の花。この日は5分咲きぐらいでした。



●1月に3男が誕生しました！遅ればせながらご報告します。

----- 切り取ってデスクマットの下に置いておかれると忘れません -----



「あ、そうじゃ、聞いてみよう」電話 0866-63-3213

せのお事務所へのお電話は、平日9～18時まで受け付けております。



矢掛●法的保護講習セミナーの講師

6日、技能実習生を対象とした法的保護講習の講師を務めました。

福岡●医療分野の人事労務管理セミナーに参加

10日、福岡で開催された医療分野の人事労務セミナーに参加しました。

福山●笑顔流筆文字教室を開催

12日、堀内正己先生をお招きし、笑顔流筆文字教室を開催しました。(詳しくは右記に)



福岡●良心に基づく就業規則作成セミナー参加

26日、福岡で開催された良心に基づく就業規則作成セミナーに参加しました。

●笑顔流筆文字教室を開催しました

北海道札幌市から来られた、堀内正己先生からのお声掛けで福山市にて笑顔流筆文字教室を開催させていただきました。

お金をかけずにロコミでお客様を増やすにはどうしたらいいのかという疑問が、たったの3時間で理解できたような気がします。

きれいな字ではないけれど、味があって温かみがあってハガキが届いたらふと目を止めてしまう。そのまま捨てるにはしのびない。そのまま冷蔵庫や壁に貼り、何かあったときには連絡してしまう。こういう事が、お客様を増やす一つの手段なんだと改めて感じました。

真似すれば簡単に出来るんじゃないかと、簡単に考えていましたが、実際に体験してみるとそうはいかない。でも、筆文字に自信がない人でも、そのハガキをもらった人には感動を届けることができる！！と思います。

3時間の講習が終わり、家に帰ってまず手に取るのが筆ペン。やはり興奮してしまっていますね。

何枚か書いていくうちに自己流でもコツがつかめてきます。このままの調子で、お礼はがきやバースデーはがきに活用していきたいと思っています。

教室に来ていただいた皆さまの筆文字活用を心より願っております。

(文/スタッフ 片山小百合)



妹尾悟の気まぐれ日誌 Vol.51

「究極の丁稚制度」

横浜市に秋山木工さんという会社があります。

秋山木工さんには、「究極の丁稚制度」である「秋山学校」があります。

秋山学校で見習いをしたあと、秋山木工に採用されると、女性でも頭は丸坊主、修行期間中は携帯電話は禁止、親への連絡は手紙のみ。5年かけて職人になると、6年目からは請負職人として仕事をし、9年目から自分の思い描く道を進むこととなります。

子をもつ親からすると、「ちょっと厳しすぎるのでは？」と思ってしまうのですが、働く彼ら彼女らの顔は笑顔に満ち溢れています。

秋山木工さんを巣立った職人は、一般の人より高い年収を得ているそうです。

決して、厳しいだけではなく、人並み以上に稼ぐ職人に育て上げていることに、秋山木工さんの社員に対する責任や深い愛情を感じます。

頭は丸坊主、携帯禁止。そのような決まりを作っておいて教える方がいい加減だと、ただのイジメです。教わる方も必死なら、教える方も必死。毎日が真剣勝負なのでしょう。

秋山木工さんの手法には、賛否両論あるかもしれませんが、人材を本気で「人財」にしようと思うなら、まず、その人の成長を願い、成長できる環境を作ることから始めるべきではないでしょうか。

つづく

